

# タイヤ・チューブご使用上の注意



お客様相談室 06-7670-7112  
受付:月曜日～金曜日(祝日を除く)  
午前9時～12時 午後1時～5時

お使いになる前に必ずお読みください。

## ■ ⚠️ ご使用上の注意

以下の記載事項を守らない場合はタイヤ・チューブが破損、破裂、リムからの離脱及び正常走行不能等が起こり事故につながる恐れがありますのでご注意ください。  
また、タイヤ・チューブは製品の目的用途外にご使用にならないでください。

### ① タイヤ組付け時

以下の注意を守らない場合にチューブが破裂することがあります。

- △注意 ▶ チューブ・リムバンドおよびリムは、タイヤに適合したサイズをご使用ください。
- △注意 ▶ タイヤに空気を入れる場合は、徐々にタイヤに表示された標準空気圧まで入れてください。
  - ▶ タイヤのリム組や取り外しは、ドライバー等の角張ったものをご使用頂くとタイヤ・チューブを傷つけたりする為、必ず専用のタイヤレバーをご使用ください。
  - ▶ リムバンドはリムのセンターにセットし、スポークの頭を完全にカバーする様にしてください。
  - ▶ タイヤはリム組前に内側を点検し、異物がないことをご確認ください。
  - ▶ リム組後タイヤとリム間にチューブが噛み込んでいないかをご確認ください。
  - ▶ リム組後は標準空気圧の状態が均一にセットされているか、リムとリムラインの間隔によりご確認ください。
  - ▶ タイヤのリム組時は、油やワックスはご使用にならないでください。

### ② 走行前時

安全および快適に走行するためにタイヤ・チューブを走行前に点検してください。異常があれば走行中に事故の発生につながる恐れがあります。

- △注意 ▶ タイヤの空気圧は、タイヤに表示された標準空気圧を充填してください。
  - ※ 仏式および米式バルブを使用しているタイヤは、タイヤゲージで測定してください。
  - ※ 英式バルブを使用しているタイヤは、タイヤゲージで空気圧を測定できませんので乗車した時の接地面長さで判定してください。接地面長さは9～10cmが適当です。
- △注意 ▶ タイヤに釘やガラス片、その他突起物が刺さっていないか、油が付着していないかご確認ください。
- △注意 ▶ タイヤに布層までに達する亀裂や損傷がないかご確認ください。
- △注意 ▶ タイヤの摩耗状態について下記の事項をご確認ください。
  - 接地部パターンの溝深さがなくなった所はないか。
  - 偏摩耗や異常な摩耗はないか。
  - 布層の露出した所はないか。

### ③ 走行時

安全に走行するため、以下の注意事項をお守りください。

- ⊖ 禁止 ▶ 二人乗りはタイヤに過度の負担がかかり、損傷やパンクにつながりますのでおやめください。
- △ 警告 ▶ 積雪路および凍結路での走行は事故につながりますので避けてください。
- △ 注意 ▶ 段差や突起物への乗り上げは、パンクやタイヤを傷つける恐れがありますので避けてください。  
急ブレーキは偏摩耗につながりますので、非常時以外は避けてください。

### ④ 使用限度(交換時期)

タイヤ・チューブが以下の状態になった場合は、事故につながる恐れがありますので交換してください。

<タイヤ>

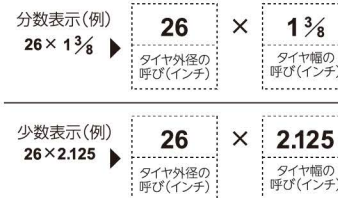
- △注意 ▶ 接地部の全周、全幅にわたってトレッドパターンの溝の深さが一部でもなくなったもの。
- △注意 ▶ 布層に達する外傷及び亀裂の発生したもの。
- △注意 ▶ 糸切れ、剥離及びビード部に損傷を起こしているもの。  
トレッドパターンの溝の深さがあっても極端な偏摩耗、段付き摩耗等、異常な摩耗状態があるもの。

<チューブ>

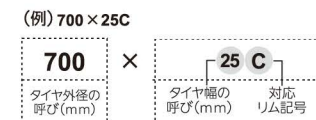
- △注意 ▶ 傷、割れ、シワ等のあるもの。
- △注意 ▶ パルプに変形、亀裂等のあるもの。

## ■ タイヤサイズの表示の見方

### インチ表示サイズ



### フランスミリ表示サイズ



### ISOミリ表示サイズ(ETROT)



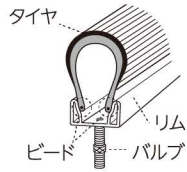
## ■ ⚠️ 保管上の注意

- ▶ 直射日光は避けてください。
- ▶ 雨または水のかかる所を避けてください。
- ▶ ストープその他の熱源に接近させないでください。
- ▶ 油類および溶剤がかかる所を避けてください。
- ▶ 電気脱臭器等のオゾンを発生させる所は避けてください。

# 自転車タイヤチューブ

## 取扱い説明書

### タイヤ各部名称

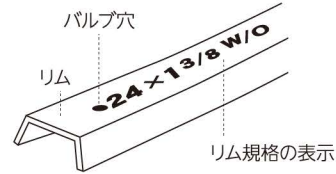


### 必要な道具



お取り替えのまえにお確かめください。

- ご使用中の自転車のタイヤサイズと同じサイズ表示のものかご確認ください。
- リムサイズの表示が同じかご確認ください。



### ご注意

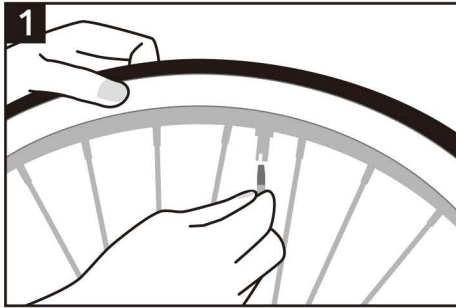
タイヤの寿命を縮めたり、パンクするのは、低空気圧走行が大きな原因です。空気は必ずじゅうぶんに入れてください。トレッドが減ったタイヤは事故に直結します。早めに取りかえてください。

### 車輪のはずし方、次の順ではずしてください。

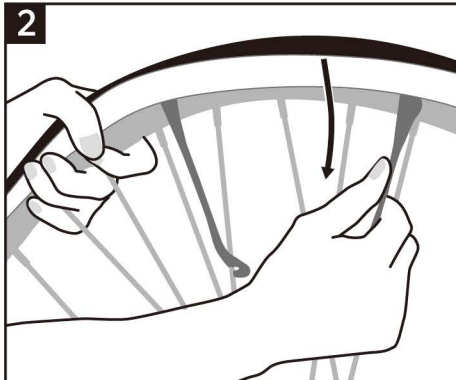
- |                      |          |
|----------------------|----------|
| (後輪)                 | (前輪)     |
| ① ブレーキドラム取付けネジ       | ① ナット    |
| ② ブレーキワイヤー           | ② 泥除け    |
| ③ ナット                | ③ ブレーキゴム |
| ④ チェーンケース(前後)        |          |
| ⑤ チェーンをチェーンホールからははずす |          |
| ⑥ 荷台                 |          |
| ⑦ 泥除け                |          |
| ⑧ スタンド               |          |

\* 取りつける場合は、この逆の順で進めてください。

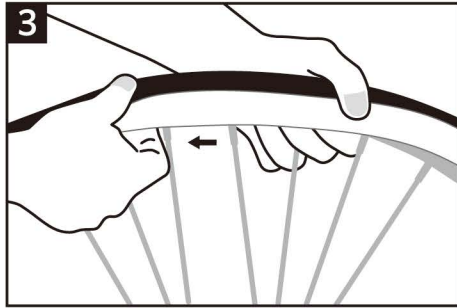
## タイヤの取りはずし方



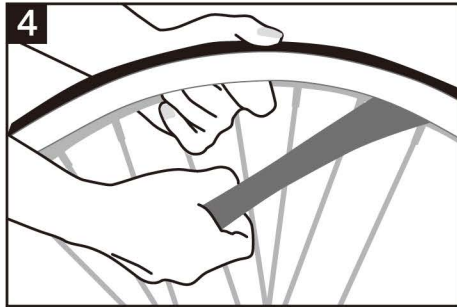
1 バルブのゴムキャップとナットをはずします。(空気が抜ける)



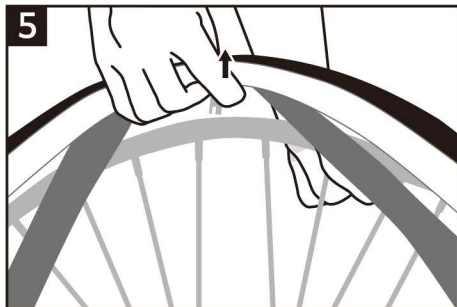
2 タイヤレバーを差し込んで、片側のビードを少しずつリムから順にはずしてください。(チューブを傷つけないように、タイヤレバーはタイヤビードにのみかけるよう注意する)



3 20~30cm程度ビードをはずし、残りのビードは指を入れて順にすべてのビードをはずします。

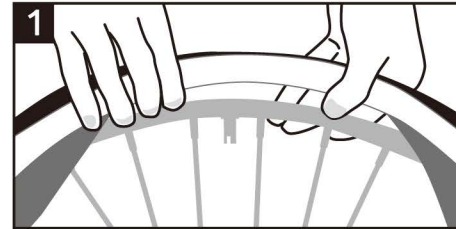


4 片側すべてのビードをリムからはずし、バルブ箇所を残して、チューブを取り出します。

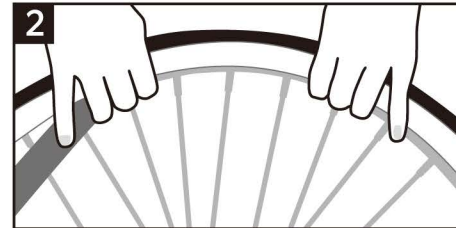


5 反対側のビードを外側へねじるようにしながらタイヤを持ち上げ、バルブ部分と一っしょにはずします。

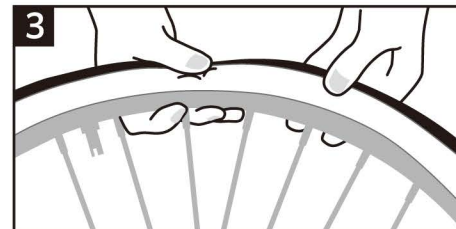
## タイヤの取りつけ方



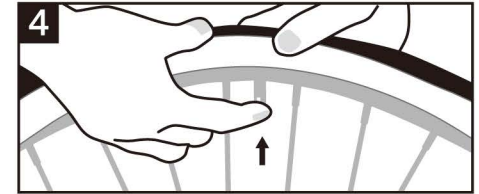
1 バルブ部分をタイヤにはめ込んでから、リムの手前側に置いてバルブをリム穴に通し、反対側のビードをリムにかけてください。



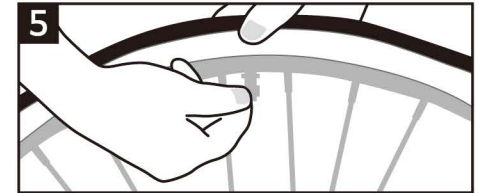
2 チューブを中に入れてください。この時、チューブをねじったり、折ったりしないよう注意してください。



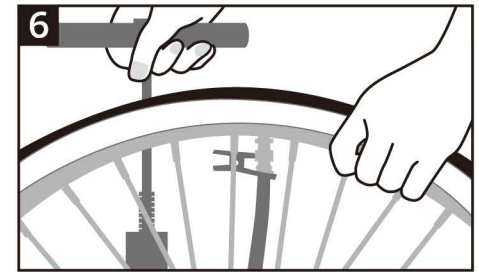
3 手前側のビードをバルブの反対側(周の対面)から順に入れてください。



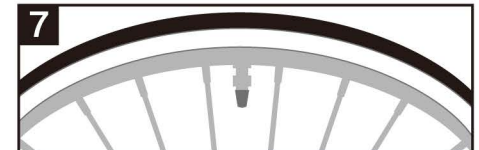
4 バルブを押し込んでください。この時、バルブ周辺のチューブをリムとタイヤビードの間にはさまないように注意してください。(タイヤビードを押ししてリムとの間を確認する)



5 ナットを取りつけます。



6 空気を少し入れてビードがリムに平均して入っているか確かめてください。均一でない場合は、空気を抜いて手でもんで調整します。



7 軟式ボール程度の硬さになるまで、じゅうぶん空気を入れてください。バルブキャップを取りつけて完成です。